Topics｜北海道支部

胆振東部地震からの復興と「よりどころ」としての場所づくり －支部研究発表会

石井旭 北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所 主査／日本都市計画学会北海道支部 幹事

1. はじめに

2022 年 11 月 26 日、当北海道支部では毎年恒例となる研究発表会を開催しました。北海道支部は、昨年度から「よりどころ」を共通テーマとして学会活動を推進しています。研究発表会では、基調講演として、胆振東部地震被災後、地域の「よりどころ」を形成しながら復興に取り組まれている安平町・及川秀一郎町長にお話をいただきましたので、以下にご紹介します。

2. 胆振東部地震直後の対応とよりどころ

安平町は人口 7,347 人（2022 年 10 月末）、3,991 世帯のまちです。ディープインパクトなどで有名な馬産地であり、酪農も盛んです。2022 年 1 月から現在までの期間に転入超過、社会人口増となりました。

4 年前（2018 年）に町長になり、わずか 4 か月後に北海道胆振東部地震を経験しました。すでに忘れられているかもしれませんが、被災地はまだ復興途中です。

発災直後から、安平町へ 5,000 人を上回るボランティアにご支援いただきました。特に、「あそびのひろば」は、学校が休校し家も被害で居場所がない子どもに対し、復旧で忙しい親に代わりボランティアの方々が開催してくれた催しです。子どもや親の心のケアにも役立った「よりどころ」でした。有志により立ち上げられた復興ボランティアセンターには、「はしご酒」イベントの開催や、空き店舗を活用したよりどころ「エントランス」の形成もしていただいています。

発災翌年の 4 月には道の駅 D-51 ステーションを開設し、3 年 1 か月で 200 万人が来場されました。現在も施設周辺のアクティビティが充実しつつあります。

一方、自閉症を持った方が避難で困難を生じた経験から、遠浅地区では、空き家を改修しコミュニティサロンを作られました。しょうがいのある子どもやご家族、そして支援者のよりどころになっています。

3. 学校再建を通じた地域のよりどころ形成へ

もともと私は町長になる前から、日本ユニセフの「CFCI : 子どもにやさしいまちづくり事業」に力を入れてきました。様々な取組みが認められ、2021 年 12 月に「実践自治体」の認定をいただきました。

子どもにやさしいまちづくりは、教育委員会の仕事だけではありません。職員全体の研修を何度も重ね、新人研修にも取り入れました。あびら教育プランでは、「遊育」を教育の柱として、子どもも大人も学び挑戦できる場所づくりを進めています。

地震では、学校の被害が甚大で、そのまま使い続けることはできませんでしたが、この機に、前よりも魅力的な学校にしたいと考えました。学校の建設にあたっては、「新しい学校を考える会」を設立し、「早来学園」という名称や、校章、制服に至るまで、子どものアイデアを取り入れてまいりました。2023 年 4 月から安平、遠浅小学校の生徒も入り 4 校義務教育型の学校としてスタートします。

子どもが主役、そしてまちのコミュニティセンターとなる学校。「学校が小さなまち」だと考えています。早来の町民センターから移転した図書室、そしてキッチンスタジオ（家庭科室）、アトリエ（技術室）、そして音楽室も地域に開放します。学校の先生には、施設は 15:30 からは地域のものと伝えています。そして、地域とつながった施設運営、全道先駆けて導入した幼保小中高連携した教育を実践していきます。

ピンチをチャンスに、という言葉のとおり、復興を契機に次の時代を見せる、50 年後にも遜色ない素晴らしい学校として使っていけるようにしていく、子供と大人を分けない、教育が安平町を作っていく。震災とコロナ禍を乗り越えて未来へ飛躍するふるさとづくり、を目標に取り組んでいきたいと考えています。

安平町　及川町長のご講演風景

安平町立早来学園校舎　パース図